

1 主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

2 主題設定の理由

(1) 経緯

本校では、これからの時代に求められる資質・能力を育成し、学習指導要領の着実な実施を進めるため、令和4年度より、「主体的・対話的で深い学び」を授業づくりにおいて具体化するよう、研修委員会の取組を進めている。

研究を進めるに当たっては、学習アンケート（生徒用：年2回）等で浮き彫りとなった生徒の実態や、教師自身のニーズに基づき、授業づくりにおける「課題意識の高め方、課題解決への見通し」（令和4年度）や、「興味・関心の喚起、学びの価値の実感」（令和5年度）をサブテーマに設定するなど焦点化を図り、段階的な取組・研究となるよう、工夫してきた。

今年度は、子どもたちの可能性をさらに引き出す研究の深化を目指し、1人1台端末の利活用を含む「個に応じた指導」の改善【個別最適な学び】や、生徒相互が互いに学び合う「協働的な学び」の場面づくり【協働的な学び】を重点化し、それぞれが一体的に深まっていくよう、研究を進めるものである。

(2) 主な取組

研究の大きな柱として位置付けているものは、以下の3点である。

1点目は、主題に基づき、さらに各教科ごとのテーマを設定し実施する「一人一研究授業」である。各教員は、年間を通じて進める個人研究の実践を公開し（年1回）、事後に参観教員とともに協議会を行うなど、個人研究の検証を進めていく。

2点目は、主題に迫る授業づくりの在り方を一層共通理解できるよう、指導主事を招聘し実施する「集中授業（全体研修会）」である。全教員により授業参観を行い、事後の協議会及び指導主事からの助言を通じて、研究のさらなる深化を目指す。

3点目は、長期休業等を活用し、主題に係る授業づくりの在り方や、生徒理解の進め方等について学ぶ「理論研修」である。講話講師を招聘し、外部からの視点も交えて、今後の研究の在り方・方向性について確認する。

今年度も、昨年度に引き続き、3点の取組を継続しつつ、主題の具現化に迫っていくものである。

(3) アンケート等について

日々の授業づくりについては、「学習に関するアンケート（前期・後期）」や、「生徒のよる授業評価（前期・後期）」を実施し、学年ごとの生徒の実態や変容を捉え、分析を進めてきた。

今年度は、主題等とアンケート項目との関連を検討し、一部改訂、変更を加え、生徒のよりよい学びに役立ち、研究の共通性・一貫性を確保できるよう工夫を図りたい。

3 研究目標

「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、各教科等の特質に応じ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるよう、授業改善を進める。

4 研究仮説

「個に応じた指導」の重視や、ICTを活用した授業改善を進めるとともに、協働的な学びの工夫や、学習における話し合活動の活性化等により、「主体的・対話的で深い学び」が実現に近付くだろう。

5 研究方法等

今年度は、上記研修委員会の主題・目標を達成するため、学習指導の取組と緊密に連携し、取組を進める。

(1) 研究方法

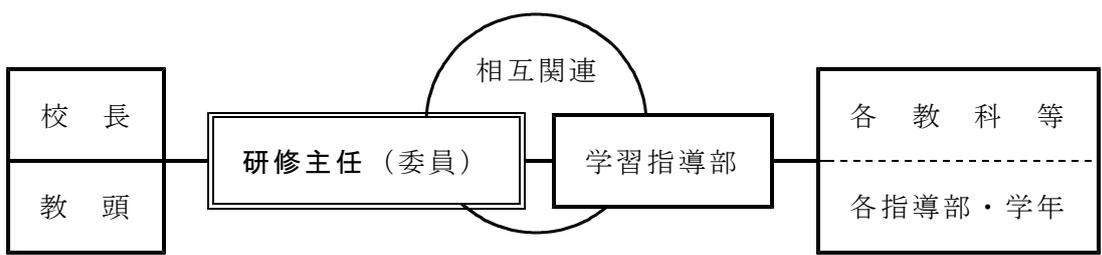
- ア 毎日の授業づくりの取組（★）
- イ 一人一研究授業による個人研究の実践・検証
- ウ 集中授業、理論研修
- エ 教員の自己評価（新規）
- オ 生徒による学習アンケート（継続）
- カ 学区小学校との連携及び近隣中学校との勉強会実施

★「毎日の授業づくりの取組」における共通理解事項
（学習指導部「授業づくりを進める教師の姿」より）〈研修テーマと密接な関連〉

- ア 学習規律を確立している。
- イ 学習課題の設定を工夫するなど、生徒の学ぶ意欲を喚起している。
- ウ 個に応じた指導を重視し、指導を工夫している。〈個別最適な学び〉**
- エ 生徒が協働しながら学ぶ場面を取り入れている。〈協働的な学び〉**
- オ 「めあて」、「まとめ」、「振り返り」を明確にした授業づくりを進めている。
- カ 授業内容と関連付け、家庭学習の内容・方法を示している。
- キ 授業において、1人1台端末を利用し、活用を図っている。〈個別最適な学び〉**

※上記については、「学習アンケート」の項目として活用する。また、「生徒による授業評価」を変更し、上記授業づくりにおける「教員の自己評価」を実施する。

(2) 研究組織



(3) 研究計画

月	内 容	月	内 容
4	・研究体制づくり・計画の策定 ・各教科等の目標決定	10	
5		11	・集中授業（数学）【初～中旬】
6	・一人一研究授業開始（～12月） （集中授業の実施日程に配慮する）	12	・学習アンケート② ・教員の自己評価②
7	・学習アンケート① ・教員の自己評価①	1	・学習アンケート②等の分析
8	・学習アンケート①等の分析 ・理論研修（アセスの理解）	2	・各教科等のまとめ作成 ・「研究のあしあと」作成
9		3	・次年度に向けた計画づくり

※集中授業ローテーション（R6 数学→R7 理科→R8 国語→R9 社会→R10 英語）

6 一人一研究授業について

(1) 実施時期等

- ・個人ごとに実施時期を4月中に定め、実施当日までに指導略案（A4）を作成し、全教職員に配付する。教職員は可能な限り、授業参観を行う。
- ・研修主任（または研究委員）は、授業参観を行い、写真による記録を行う。

(2) 授業づくりの観点

- ア 各教科の研究テーマ
- イ 上記「毎日の授業づくりの取組」項目
- ウ その他

※参観者は、観点に基づく「参観シート」（別に定める）を作成する。

(3) 授業後の研究協議（司会：研修主任または委員）

- ・授業実施日の昼休み等を利用し、校長・教頭・授業者・研修主任（または委員）・参観者を交え、参観シートに基づき研究協議を行う。

(4) 「研究のあしあと」

- ・指導略案及び参観シートに基づく研究協議内容等を掲載する。

7 各教科ごとの研究テーマ

教科等		教科等のテーマ
教 科	国語	言語活動を通して考えや思いを深め、「話す力」「聞く力」「書く力」「読む力」を育てるための指導法の工夫
	社会	地理、歴史、公民の各事象について、課題意識をもって自主的に思考し、自分の意見を形成する指導法の工夫
	数学	基礎・基本の定着と、既習事項や数学的な思考を利用して解決する力を育てる指導法の工夫
	理科	理科の見方・考え方を働かせ、科学的に課題を解決する力を高める指導法の工夫
	英語	既習事項を活用し、目的・場面・状況に応じて、自分の考えや気持ちを表現する力を高める指導法の工夫
	音楽	学習意欲を喚起し、既習事項を生かして自分の思いを表現したり演奏したりするための場面設定や方法の工夫
	美術	造形的な見方・考え方を働かせて構想し、表現への見通しをもたせる指導法の工夫
	保健	課題に応じた運動に取り組み、共に学び合う生徒を育てるための指導法の工夫
	技術	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活を豊かにするための課題解決へ見通しをもたせる指導法の工夫
	家庭	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活を豊かにするための課題解決へ見通しをもたせる指導法の工夫
	道徳	道徳的価値の理解に迫る、話し合い活動を取り入れた指導の工夫
	特別活動	話し合いや振り返りなどの活動場面を通して、諸活動に主体的に取り組ませるための指導法の工夫
	総合的な学習	体験的・探究的・問題解決的な学習を通して、自他の良さを認め合い、主体的・協働的に取り組む指導法の工夫